

中学校における

# 進路指導の手引

～ 生徒一人一人の心に寄り添い、  
生徒の可能性を伸ばし、  
生徒の自己実現を支援する ～

平成 29 年 2 月  
広島県教育委員会

## はじめに

平成 27 年 12 月に府中町内の中学校において、生徒が自ら命を絶つという大変深刻で、あってはならない重大な事案が起きました。

府中町学校運営等についての調査検討委員会の答申(平成 28 年 11 月 3 日)では、当該校において、キャリア教育の視点に立った進路指導，組織的な進路指導体制，情報管理，推薦・専願基準の機械的・形式的運用や運用変更，進路選択に関する進路相談等に課題があったことが示されております。とりわけ，生徒一人一人の心に寄り添った進路指導が十分に行われていなかったと指摘されております。このことを，当該校だけでなく，私たち教育に携わる者全員が，自分のこととして厳しく受け止め，これまで以上に，目の前にいる生徒一人一人の心に寄り添う姿勢を大切に，進路指導に取り組まなければなりません。

進路指導は，キャリア教育の中核をなしています。中学校においては，3年間を通じて，社会的・職業的自立に向け，必要な能力や態度を育てるキャリア教育の視点に立って，一人一人の生徒の可能性を十分に伸ばすことが大切です。そして，生徒が自らの意思と責任で進路を選択決定できるよう指導・援助する生き方の指導を行う必要があります。「こういう悪いことをしたら，行きたい学校に行けなくなる」というような，マイナス面のみを捉え，問題行動を排除する考え方に基づいた指導は，キャリア教育の視点に立った進路指導とは言えません。生徒一人一人のプラス面を捉え，将来の可能性を考えて進路指導を行っていくことが求められます。

この度，県内の全教職員が，生徒の心に寄り添った進路指導を常に意識し，「キャリア教育の視点に立った進路指導とは何か」を共通理解し，全県を挙げて取り組むために，「中学校における進路指導の手引」を新たに作成しました。

県内の全中学校において，本手引が広く活用され，適正な進路指導の充実が図られることで，生徒が希望する進路を実現する一助となることを強く念願しております。

# 目 次

## < 第Ⅰ章 キャリア教育の視点に立った進路指導の充実 >

1	キャリア教育と進路指導との関係	1
2	進路指導の基本的な考え方	1
3	生徒一人一人の心に寄り添う進路指導	2
4	キャリア発達段階に応じた系統的な進路指導の推進	3
5	「わたしのキャリアノート」の活用	4

## < 第Ⅱ章 組織的な進路指導の推進 >

1	進路指導体制の確立	7
2	進路指導体制の在り方	7
3	進路指導主事の職務と役割	8

## < 第Ⅲ章 キャリア・カウンセリングの充実 >

1	キャリア・カウンセリングと進路相談	11
2	進路選択に関する面談の進め方	12
3	進路選択に関する面談を行う場所	12
4	進路相談の記録とその活用	12

## < 第Ⅳ章 高校入試等に係る指導の在り方 >

1	本県の現状を踏まえた進路指導	14
2	中学校において策定する推薦基準等の在り方	14
	高等学校等の入試に際して、公立中学校において推薦するためのガイドライン	15
3	家庭・保護者、教育委員会との連携	17
4	情報管理の徹底	17
5	就職に係る公共職業安定所（ハローワーク）等との連携	18
6	中学校卒業時に進路が決定しない生徒への指導	18

## 別添資料

○	進路指導の在り方について（平成28年4月）	21
○	「わたしのキャリアノート」～夢のスケッチブック～	23
○	キャリア・カウンセリング研修資料	24
○	面接評価チェックリスト	28
○	（参考）ハローワーク広島が平成30年3月新規中学校卒業者に 職業紹介を行う業務日程表	29

参考・引用文献一覧	30
-----------	----

# 第 I 章 キャリア教育の視点に立った進路指導の充実



## ここがポイント！

- ① 進路指導は、生き方の指導であり、キャリア教育の中核をなしています。「出口指導」に偏った指導にならないようにしましょう。
- ② 進路指導は、学校の教育活動全体を通じて、入学時から、生徒が希望する進路を実現できるよう、系統的、計画的、組織的に推進しましょう。
- ③ 中学校段階でのキャリア発達課題について理解し、生徒一人一人の心に寄り添った進路指導を行いましょう。

## 1 キャリア教育と進路指導との関係

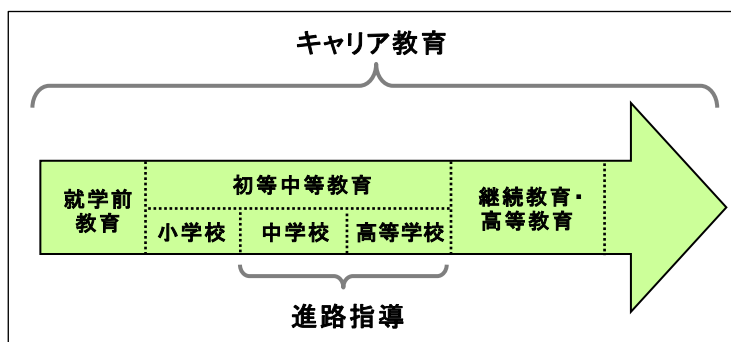
進路指導は、生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意思と責任で進路を選択決定する能力・態度を身に付けることができるよう指導・援助する生き方の指導であり、キャリア教育の中核をなしています。入学・就職試験に合格させるためだけの「出口指導」に偏った指導に陥らないようにする必要があります。

「どの学校に行けるのか」という「進路仕分け」ではなく、社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の視点


で、生徒一人一人のキャリア発達を促す、きめ細かで温かい指導・援助が必要です。

進路指導は、理念・概念やねらいにおいてキャリア教育と同じものですが、右図のように、中学校・高等学校に限定される教育活動です。生徒一人一人が自分の個性や適性を理解し、将来の夢や職業を思い描きながら主体的に進路を選択していくために、進学先や就職先を共に考え、指導・援助することが必要です。

キャリア教育と進路指導との関係



文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」(平成 23 年) p. 38

 p. 21 進路指導の在り方について

## 2 進路指導の基本的な考え方

学校教育法では、「職業についての基礎的な知識と技能，勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと。」(第 21 条第 10 号) と示されています。

各学校においては、次のページに示した教育活動を中心に学校の教育活動全体を通じて、入学から卒業まで、系統的、計画的、組織的に進路指導を推進していく必要があります。また、卒業時に進路が決定していない生徒には、早期に進路

決定がなされるよう指導・援助していくことが必要です。

進路指導には、次のような教育活動が考えられます。(参考：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」〔平成 23 年〕 p. 35)

- 生徒が自己理解を深め、自らの生き方について考えられるよう指導・援助する教育活動
- 生徒が情報を活用し、主体的に進路を選択できるよう指導・援助する教育活動
- 生徒が職場体験活動や高等学校への訪問等を通して、進路について具体的な情報を得るとともに、自己の能力・適性について考えられるよう指導・援助する教育活動
- 生徒が進路に関する悩みや問題の解決を図り、望ましい進路の選択やその実現に取り組めるよう指導・援助する教育活動
- 中学校卒業時に進路が決まらない生徒に、進路決定に向けて指導・援助する教育活動

### 3 生徒一人一人の心に寄り添う進路指導

中学生は、様々な葛藤や経験の中で自分を見つめ、自分の生き方を模索するようになります。このような時期は、感情や衝動の赴くままに行動し、自分の弱さに自己嫌悪を感じたり、理想や本来の自分の姿を追い求め、大きく前進しようとしたりする中で、大きく、激しい心の揺れを経験しながら、自己を確立していく大切な時期です。そのような中、生徒は、義務教育修了段階において、進路選択を迫られる場面に出会い、希望や不安を抱き、不安定になる事も多くなります。教職員はそういった中学生の発達段階の特徴を十分に理解し、生徒の変容を敏感に感じ取り、生徒が抱える日常生活に関する不安や悩みなどを積極的に受け止め、生徒理解を深めながら、進路指導に取り組む必要があります。生徒一人一人の姿を、表面的な言動だけで決め付けることなく、自己確立へ向けての模索の姿として、広い視野で見守ることも大切です。

#### <中学校学習指導要領解説（平成 20 年）に見る中学生の特徴（一部抜粋）>

##### ○ 道徳編

それまで、程度の差はあるものの周囲の期待にそって「良い子」として振る舞ってきた子どもたちも、中学生のころから、様々な葛藤や経験の中で、自分を見つめ、自分の生き方を模索するようになる。感情や衝動の赴くままに行動し、自分の弱さに自己嫌悪を感じることもあるであろうし、逆に、理想や本来の自分の姿を追い求め、大きく前進しようとすることもある。中学生は、そのような大きく、激しい心の揺れを経験しながら、自己を確立していく大切な時期にある。一人一人の生徒の姿を、表面的な言動だけで決め付けることなく、自己確立へ向けての模索の姿として、広い視野で見守ることが大切である。

○ 総合的な学習の時間編

中学生は、未熟ながらも大人に近い心身の力をもつようになる。大人の社会とかかわる中で、大人もそれぞれ自分の世界をもちつつ、社会で責任を果たしていることに気付いていく。また、義務教育修了段階において、進路選択を迫られる場面にも出会う。こうした時期に、働くことや職業を自分とのかかわりで考えることや、自己の将来を展望しようとすることは、自己の生き方を考えることに直接つながる重要な学習である。

○ 特別活動編

中学生の時期は、親への依存から離れ、自らの行動は自ら選択決定したいという独立や自律の要求を高めていく。同時に、自分の将来における生き方や進路を模索し始める。また、様々な人々の生き方にも触れて、人間がいかに在るべきか、いかに生きるべきかについても、考え始めるようになる。

文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」（平成 23 年）p. 118 抜粋

4 キャリア発達段階に応じた系統的な進路指導の推進

キャリア教育の視点に立って、生徒一人一人が希望する進路の実現に向けた進路指導を推進するためには、中学校段階でのキャリア発達課題を理解することが大切です。

また、小学校におけるキャリア教育の取組を踏まえつつ、生徒の実態に即した指導を実践する必要があります。

中学校段階でのキャリア発達課題		
○キャリア発達段階 →現実的探索と暫定的選択の時期		
○キャリア発達課題		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的自己理解と自己有用感の獲得</li> <li>・興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成</li> <li>・進路計画の立案と暫定的選択</li> <li>・生き方や進路に関する現実的探索</li> </ul>		
各学年におけるキャリア発達課題の例		
1年生	2年生	3年生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良さや個性が分かる。</li> <li>・自己と他者の違いに気付き、尊重しようとする。</li> <li>・集団の一員としての役割を理解し果たそうとする。</li> <li>・将来に対する漠然とした夢やあこがれを抱く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の言動が他者に及ぼす影響について理解する。</li> <li>・社会の一員としての自覚が芽生えるとともに社会や大人を客観的にとらえる。</li> <li>・将来への夢を達成する上での現実の問題に直面し、模索する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進める。</li> <li>・社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。</li> <li>・将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服するための努力に向かう。</li> </ul>

文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」（平成 23 年）p. 115

<キャリア発達について理解しておくべき視点>

- 中学生の時期の特徴について理解する。
  - ・ 社会の一員としての自分の役割や責任の自覚が芽生えてくる時期
  - ・ 様々な葛藤や経験の中で、自分の生き方を模索し、夢や理想を持つ時期
  - ・ 現実的に進路の選択を迫られ、自分の意思と責任で決定しなければならない時期
- 社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等についてしっかり考えさせる。
- 目標を立てて計画的に取り組む態度の育成等について、体験を通じて理解させる。
- 進路の選択・決定へと導くことが重要であることから、生徒の発達の段階を踏まえて学習活動を展開する。

- 職場体験活動については、事前、事後の指導だけでなく、入学時から卒業時までの長い期間の中で、生徒のキャリア発達に応じた指導を展開する。
- 各学校の一般的な発達課題を目標にして指導計画を作成し、活動を展開しながら、生徒個人のキャリア発達に対応するための指導を充実させる。

参考：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」（平成 23 年）p.116

## 5 「わたしのキャリアノート」の活用

キャリア教育は、就学前段階から小学校、中学校、高等学校等にわたり、組織的・系統的に取り組む必要があります。そのために本県では、平成 20 年に「わたしのキャリアノート」を作成し、平成 21 年度から各学校で活用されています。次のポイントを参考に、効果的に活用しましょう。

### <「わたしのキャリアノート」の効果的な活用のポイント>

- なりたい職業だけでなく、その理由、働き方や生き方等についても併せて考えさせ、可能な限り具体的な言葉でまとめさせましょう。
- 単なる卒業後の進路先の記載にならないよう、生徒に将来の見通しをもたせ、卒業後の進路と、将来の夢等がどのようにつながっているのか、しっかり整理させましょう。
- これまでの「わたしのキャリアノート」で自分の興味・関心の変容、過去のがんばりや教師の評価等を振り返り、自分の適性や進路を考える材料にさせましょう。

### <「わたしのキャリアノート」（中学校 3 年生）記入欄（「3 考えてみましょう」）の記載例>

あなたの将来の夢は何ですか。

- 以前は、警察官にあこがれていました。今は職場体験で経験した消防士になりたいという思いに変わりました。警察官と同じく、人のために働いていることを実感できる、素晴らしい仕事だと思います。火災現場のあらゆる場面を想定し、自分を鍛える姿勢もかっこよかったです。中学校の陸上部で身に付けた、計画的に粘り強く頑張る力も活かせると感じました。以上の理由で、消防士になりたいと思います。

夢をかなえるための、卒業後の進路計画を書きましょう。

- 高校卒業後に消防士採用試験を受験するため、A 高校（普通科）で、高校卒業程度の一般教養の試験に対応できる学力を付けたいと考えています。また、A 高校は陸上部も強豪なので、中学校で頑張った経験を生かして、全国大会出場を目指しながら、消防士に必要な体力も付けたいと考えています。



自校の状況を見つめ直してみましょう!

- あなたの学校の進路指導は、入学・就職試験に合格させるためだけの「出口指導」に偏っていませんか？
- 「キャリア教育の視点に立った進路指導」について説明できますか？
- 自校のキャリア教育の目標が言えますか？
- あなたの学校の生徒は、自ら進んで進路選択を行う生徒に育っていますか？
- 「生徒一人一人の心に寄り添う進路指導」をするために、生徒にどのように接していますか？
- 定期的に次ページのようなアンケート（例）を活用する等、生徒の実態を把握し、自校のキャリア教育の充実に生かしていますか？



## キャリア教育アンケートの一例

これはテストではありません。あなたの日常生活（授業中や放課後、家庭での生活など全般を含みます）の様子を振り返って、当てはまる番号に○を付けてください。

4：いつもしている      3：時々している      2：あまりしていない      1：ほとんどしていない

①	友だちや家の人の意見を聞く時、その人の考えや気持ちを受け止めようとしていますか。	4	3	2	1
②	相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。	4	3	2	1
③	自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしていますか。	4	3	2	1
④	自分の興味や関心、長所や短所などについて、把握しようとしていますか。	4	3	2	1
⑤	気持ちが沈んでいる時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組もうとしていますか。	4	3	2	1
⑥	不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。	4	3	2	1
⑦	分からないことやもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問をしたりしていますか。	4	3	2	1
⑧	何か問題が起きた時、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えていますか。	4	3	2	1
⑨	何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしていますか。	4	3	2	1
⑩	学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。	4	3	2	1
⑪	自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法について考えていますか。	4	3	2	1
⑫	自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしていますか。	4	3	2	1

- ①～③……人間関係形成・社会形成能力  
 ④～⑥……自己理解・自己管理能力  
 ⑦～⑨……課題対応能力  
 ⑩～⑫……キャリアプランニング能力

## 第Ⅱ章 組織的な進路指導の推進



### ここがポイント！

- ① 進路指導主事を中心とした進路指導部を校務運営組織に位置付け、組織的な進路指導の体制を確立しましょう。
- ② 進路指導主事の職務と果たすべき役割を理解し、実践しましょう。
- ③ 進路指導主事は、校長の方針の下、各主任等（教務主任、生徒指導主事、学年主任等）や学級担任等と連携を密にしましょう。

### 1 進路指導体制の確立

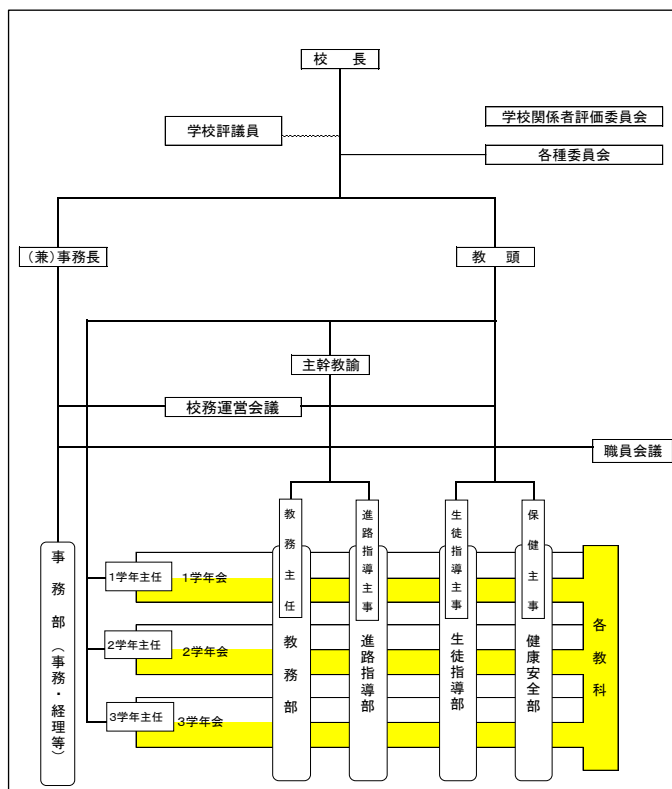
進路指導を、学校の教育活動全体を通じて効果的に進めるためには、校務運営組織に、進路指導主事を中心とした進路指導部を位置付け、校内の組織体制を確立するとともに、学級担任を始め、教職員が相互に連携を密に図り、それぞれの役割・立場において協力して生徒への指導・援助に当たる必要があります。特に、生徒一人一人のキャリア発達を支援し、きめ細かく温かく支える指導を行うためには、生徒についての理解を深め、情報を共有できる協力的な組織体制で、進路指導の推進を図ることが必要です。

### 2 進路指導体制の在り方

組織的な進路指導を推進する体制を構築するためには、次の点を考慮することが必要です。

- 校務運営組織に、省令主任である進路指導主事及び進路指導部を明確に位置付け、校務運営組織図に明記すること
- 進路指導部は、全ての学年の教職員により構成すること。なお、学校の実態に応じて、他の部と重複して教職員が所属する場合もありうる
- 校長の方針の下、進路指導主事がリーダーシップを発揮し、各主任等や学級担任等と連携しながら、組織的に進路指導を推進すること

校務運営組織図<参考例>



※ 主幹教諭は、校長及び教頭を助け、命を受けて校務の一部を整理するという点に留意すること。(学校教育法第37条第9項)

前ページの校務運営組織図を参考にして、進路指導主事が教務主任や各学年主任と連携し、進路指導を推進する校務運営組織を整えることが大切です。

### 3 進路指導主事の職務と役割

進路指導主事の職務は、学校教育法施行規則に次のように定められています。

進路指導主事は、指導教諭又は教諭をもって、これに充てる。校長の監督を受け、生徒の職業選択の指導その他の進路の指導に関する事項をつかさどり、当該事項について連絡調整及び指導、助言に当たる。  
(学校教育法施行規則第71条第3項)

進路指導主事は、校長の監督を受け、全校で実施する進路指導の中心となって、教職員間の連絡調整だけでなく、関係教職員に対する指導、助言に当たらなければなりません。また、進路指導の計画を踏まえ、各学年の実施状況について把握し、絶えず改善・充実を図る等の職務を負っています。

進路指導主事は、このような職務を自覚し、リーダーシップを発揮して、進路指導部を機能させ、組織的な進路指導を実施できるよう、マネジメントすることが必要です。

#### <進路指導主事及び進路指導部の役割>

- ① 進路指導主事は、校長の学校経営方針を踏まえ、進路指導の方針について、進路指導部で出された意見を取りまとめ、進路指導部としての原案を作成する。
- ② 進路指導主事は、管理職の了解の下、進路指導の方針の原案を校務運営会議等に諮り、校長が決定した進路指導の方針を進路指導部で共有する。
- ③ 進路指導主事は、学校の進路指導の方針について、速やかに研修等の場において説明し、全教職員の共通理解を図る。
- ④ 進路指導主事は、学校の教育活動全体を通じて進路指導が行われるように、各主任等と連携し、協働して進める。
- ⑤ 進路指導部は、進路指導主事が中心となり、進路指導の方針に基づき、進路指導の年間指導計画を作成し、必要な校内研修の企画、運営に当たるとともに、一年間の指導の流れ、役割分担等を確認し、効果的に進路指導が実施されるように、各学年の取組内容を検討する。
- ⑥ 進路指導部は、各学年に一年間の進路指導の取組内容等を明確に説明し、教職員がそれぞれの役割を自覚して、見通しを持って取り組めるようにする。
- ⑦ 進路指導部は、進路指導主事が中心となり、「キャリア教育の視点に立った進路指導の考え方」、「進路相談の仕方」、「高校入試制度に関する知識」、「個人情報収集・整理・管理の仕方」、「進学先の学校・就職先の事業所との連携の仕方」等について、学級担任等の持つ知識・経験、指導技術等の個人差を踏まえ、必要な指導、助言を行う。

⑧ 進路指導部は、進路指導主事が中心となり、計画に基づいた進路指導の実施状況を把握し、課題を明確にして改善を図る等、PDCAサイクルに基づいた進路指導を行うようにする。

次の表は、「3年間を見通した進路に関する学習の年間計画の概要」の参考例です。各学年において、進路指導に関わる内容や進路相談をどの時期に、どのように計画するのかについては、進路指導主事がリーダーシップを発揮し、進路指導部で練り上げることが大切です。

### 3年間を見通した進路に関する学習の年間計画の概要<参考例>

第1学年	自己の個性について理解し、将来の進路選択や計画についての関心を高める。			
第2学年	職業や進学先の学校について理解し、自己の進路について、よりよい選択や計画ができる能力や態度を育てる。			
第3学年	学校の特性や希望する進路の情報を確かめて、自分にふさわしい職業や学校を選択するとともに、その進路に対し、意欲を持ち向上していこうとする態度を養う。			
	第1学年	第2学年	第3学年	その他
一学期	○進路について学ぶ ○私の夢と希望 ○職業調べ	○自分の適性を知る ・自己理解 ○いろいろな職業 ○働くことの意義と目標 ○職場体験の意義と目標	○進路決定までの見通し ○進路選択の視点 ○進学・就職の意義と心構え ○オープンスクールの意義と計画 ○上級学校の内容と特色 ○先輩に学ぶ（体験談）	進路希望調査 個人面談 三者懇談
二学期	○職業調べの発表 ○働く人々 ○自分を見つめる	○職場体験から得たもの ○進学の意義と目標 ○学校制度と学校の種類	○進路決定に向けて ○進路への悩みと不安 ○学習方法の見直し ○面接試験の意義と心構え ○受検（受験）の心構え ○願書の書き方 ○入学・就職の手続き	進路希望調査 個人面談 三者懇談
三学期	○私の将来と生活 ○進路に関する計画 ○生活の見直しと今後の努力目標	○学校訪問（調べ） ・上級学校訪問に向けて ・上級学校訪問で得たもの ○進路に関する計画の再検討	○将来の抱負	進路希望調査 個人面談 三者懇談



自校の状況を見つめ直してみましょう!

- 自校の進路指導に係る方針や考え方を十分に理解して、生徒や保護者に分かるように説明できますか？
- 校務運営組織に、進路指導主事及び進路指導部を明確に位置付け、校務運営組織図に明記していますか？
- 進路指導について重要なことを決定する際、生徒についての理解を深め、情報を共有できる協力的な組織体制で、他の教職員が意見を言いやすい雰囲気になっていますか？
- 進路指導主事が、教務主任、生徒指導主事及び学年主任等と日常的に会話し、情報交換する等、協力的な体制で連携していますか？
- 進路指導部は、進路指導主事が中心となり、進路指導の方針に基づき、進路指導の年間指導計画を作成していますか？
- 進路指導部は、必要な校内研修の企画、運営に当たるとともに、一年間の指導の流れ、役割分担等を確認し、効果的に進路指導が実施されるように、各学年の取組内容を検討していますか？
- 進路指導主事は、第3学年だけでなく、全ての学年の進路指導の状況を把握し、必要に応じて指導、助言を行っていますか？




### ここがポイント！

- ① 日頃から生徒の様子を観察し、一人一人の考えを受け止めて、生徒との信頼関係をつくりましょう。
- ② 生徒の悩みや不安等を、解決できるように支援する進路相談を心がけましょう。
- ③ 進路指導や進路選択に関する面談については、計画的、継続的に行いましょう。
- ④ 生徒のプライバシーに配慮した場所で、進路相談を行いましょう。

### 1 キャリア・カウンセリングと進路相談

キャリア・カウンセリングとは、生徒が自らの意思と責任で進路を選択することができるようにするための、個別又はグループ別に行う指導・援助のことです。生徒は、「自分は何に向いているか」、「自分に合った仕事は何か」などの生きること、働くことについて悩みを抱えている場合がほとんどです。そのため、教職員は、日常的に生徒と接する中で、生徒自身の適性や希望について気付きを促し、進路について主体的に考えさせ、生徒の行動や意識の変容につなぐ意図的な働きかけを心がけることが大切です。中学校においては、夢や目標は発達や経験によって上書きされることがあって当然だということに気付かせるような対話も必要です。

進学や就職に関わって行われる相談活動を「進路相談」と呼んでいますが、キャリア・カウンセリングの視点を踏まえると、進路相談は、卒業を控えた学年だけで行うのではなく、3年間にわたって、計画的かつ継続的に実施され、入学前からを振り返り、卒業後の将来までを見通す必要があります。このような進路相談を充実させることによって、教職員と生徒との信頼関係が生まれ、思いや考え、迷いや悩みを生徒自らが語るようになるのです。とりわけ、進路選択に関する面談を行う際も、キャリア・カウンセリングの視点を踏まえることは極めて重要です。教職員は、日常の対話の中でもキャリア・カウンセリングを意識し、その質の向上に努め、生徒が自らの可能性を発見し、自己実現に向けて更なる意欲を喚起できるよう指導する必要があります。

 p. 24 キャリア・カウンセリング研修資料

### <個々の発達を促す、「語る」「語らせる」「語り合わせる」>

子供たちが将来自立して生きていけるよう自分の生き方を見つめ、主体的に考えられるよう、個々の発達を踏まえて働きかけるには、どのようにすればよいのでしょうか。

具体的には、先生方が「語る」、子供に「語らせる」、子供たちに「語り合わせる」

先生方が「語る」ことは、子供たちにとって自分の生き方を考える上で、重要です。だからこそ、伝える内容と伝え方の双方に気を付ける必要があります。

「あなたはどのように思うのかな？」というように、子供たちの思いや考えを引き出すよう、意図して働きかけることが大切です。

子供に「語らせる」ことは、まだ言葉や文章にしていない自分の思いや考えに気付くきっかけになります。ですから、子供に「語らせる」ときは、耳を傾けて受け止めるよう心掛けることが大切です。

子供たちに「語り合わせる」ことは、他者の思いや考え方を知るとともに、自分自身の思いや考え方を明確にしたり、整理・再構築したりすることにつながります。意図的に、自他の違いに気付き、それを受け入れるよう促していくことが大切です。

国立教育政策研究所 「『語る』『語らせる』『語り合わせる』で変える！キャリア教育」（平成28年3月）

## 2 進路選択に関する面談の進め方

入学時から卒業後の将来までを見通し、計画的かつ継続的に面談を実施するには、右表のように、キャリア教育の視点を踏まえた3年間の進路選択に向けた進路相談計画等を作成することが大切です。


特に、生徒と保護者を同時に対象とする三者懇談等の進路選択に関する面談については、進路指導の方針に立脚した計画を立てることが必要です。

計画の立案に当たっては、次のことに留意する必要があります。

- 職場体験活動や上級学校の訪問等、進路指導の諸活動との関連を踏まえ、効果的な面談の実施を図ること
- 面談を実施する時間、場所等を明確にし、円滑な実施を図ること
- 面談に必要な資料を収集し、効果的な活用を図ること
- これまでに実施した面談の内容等を生かすようにすること

進路選択に向けた進路相談計画<参考例>

	第1学年	第2学年	第3学年
一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 入学時に学校生活への適応、生徒理解をねらいに、面談を実施。</li> <li>○ 保護者会後に生徒理解をねらいに、保護者と面談を実施。</li> <li>○ 必要に応じて学校生活への適応の援助となる面談を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級の編制替えを機会に、生徒理解をねらいに、面談を実施。</li> <li>○ 保護者会後に生徒理解と悩み相談として、保護者と面談を実施。</li> <li>○ 必要に応じて学校生活への適応の援助となる面談を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 進路の選択に備えて、生徒の自己理解を整理する面談を実施。</li> <li>○ 進路の選択に備えて、三者懇談を実施。</li> <li>○ 三者懇談の補充として細かい援助となる面談を随時実施。</li> </ul>
二学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 進路についての学習との連携を図り、生徒の自己理解を援助する面談を実施。</li> <li>○ 必要に応じて個人面談を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 進路についての学習との連携を図り、生徒の進路適性の理解を援助する面談を実施。</li> <li>○ 必要に応じて個人面談を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 進路計画の最終検討と進路先の選択をねらいに、個別及び三者懇談を実施。</li> <li>○ 必要に応じて進路の選択を援助する面談を実施。</li> </ul>
三学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 進路についての学習との連携を図り、進路計画立案を援助する面談を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 進路についての学習との連携を図り、進路計画の再検討を援助する面談を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 進路未決定者の援助及び進路先への適応を援助する面談を実施。</li> </ul>

 p. 28 面接評価チェックリスト

## 3 進路選択に関する面談を行う場所

進路相談の中でも、特に進路選択に関する面談については、生徒が落ち着いて自ら進んで話せるような環境で行うことが重要です。生徒にとって、温かい雰囲気を感じられ、緊張せずに安心して話せるような環境をつくることにより、効果的な相談活動を実施することができます。なお、相談室以外の場所を利用する場合は、個別相談の内容を他の生徒に聞かれることのないような場所で行うよう、特に留意する必要があります。

## 4 進路相談の記録とその活用

進路相談を継続的、発展的に進めるために、その記録を作成することが大切です。記録の内容には、相談内容、進路希望調査、日々の様子、学習の状況などがあり、それらを継続的に記録し、各生徒の「個人情報」として整理し、進路相談や個別指導に生かせるものにすることが望まれます。

また、個人資料などの個人情報の保管・管理には十分に留意するとともに、担任等が変わる際には、引き継ぎを確実に行うことが必要です。

### <進路相談の記録の作成に係る留意点>

- ア 相談内容、過程、状況などに関する事実と、教職員の意見や判断、感想など主観的な内容とは分離して記録すること
- イ 記録は、相談中ではなく、相談後のできるだけ早い時期に書くこと
- ウ 記録は、簡潔に、分かりやすい表現で書くこと



自校の状況を見つめ直してみましょう!

- あなたの学校の生徒は、自分の進路について困っている時に、誰かに相談していますか？
- 生徒の日常生活や将来に関する不安、悩み等を積極的に受け止め、自分なりに解決することを支援するような進路相談を行っていますか？
- 入学当初から、計画的な進路相談を行っていますか？
- 進路相談で生徒や保護者に話す内容は、進路指導主事を中心とした組織的な体制の中で共有したものになっていますか？
- 進路相談を行う場所は、個別相談の内容を他の生徒に聞かれることのない、生徒が安心して思いを語ることのできる環境になっていますか？
- 進路相談の記録を作成するとともに、その情報の管理については十分に留意し、次の個別指導に生かせるものになっていますか？



## 第Ⅳ章 高校入試等に係る指導の在り方



### ここがポイント！

- ① 生徒を推薦するに当たっては、一人一人の日頃の努力や改善状況等を踏まえて、総合的に判断しましょう。
- ② 日頃から家庭・保護者、教育委員会との連携を密にしながら進路指導を進めましょう。
- ③ 情報管理は、速やかに、正確に、確実に作成し、点検、保管の徹底に努めましょう。

### 1 本県の現状を踏まえた進路指導

生徒は卒業に係り、将来を見据えて高校進学や就職等、現実的な進路の選択を迫られます。上級学校への進学や就職が、生徒の人生にとって極めて大きな意味を持つことを考えると、その指導に当たる教職員の責任も極めて大きいものであるといえます。

本県の中学校卒業生の進学率は、平成 28 年度で 98.6%であり、その内約 3 割が私立高校に進学しています。就職率は 0.4%で、平成 21 年度からほぼ横ばいの状況が続いています。また、進路未決定者については、平成 22 年 3 月に 514 名に上るといふ大きな課題がありました。しかし、こうした課題に対して、各校が継続的な粘り強い取組を行うことにより、平成 28 年 3 月には 124 名まで減少しています。今後も更なる減少に向けて継続して取り組む必要があります。

このような状況の中、特に私立高校においては、各校の建学の精神に基づいて、様々な入試が実施されており、生徒は、進路の選択に加え、推薦入試や一般入試といった、受験の方法についても選択しなければなりません。教職員は、キャリア教育の視点に立って、生徒一人一人が希望する進路を実現する進路指導を推進するためにも、入試制度の内容を十分に理解し、必要な情報等を収集するとともに、生徒が希望する進路を決定できるよう、学校全体で組織的に取り組む必要があります。

### 2 中学校において策定する推薦基準等の在り方

推薦入試制度による高等学校等の入試に際しては、校長が、生徒の優れた点や長所等、3年間の学業や生活態度等を考慮して、総合的に判断し、生徒を推薦することとなります。

その際、広島県教育委員会が作成した「高等学校等の入試に際して、公立中学校において推薦するためのガイドライン」(次ページ参照)を参考に、自校の推薦基準等を随時見直し、必要に応じて改善を図ることが大切です。

# 高等学校等の入試に際して、公立中学校において 推薦するためのガイドライン

広島県教育委員会 平成 29 年 2 月

このガイドラインは、高等学校等の入試に際して、広島県内の公立中学校において、校長が生徒を推薦するための基本的な考え方や、中学校の推薦基準等の策定、変更及び運用上の留意点について示すものである。

## I 推薦するための基本的な考え方

中学校においては、3年間を通じて、社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育てるキャリア教育の視点に立ち、一人一人の生徒の可能性を十分に伸ばし、生徒が自らの意思と責任で進路を選択決定できるよう、学校の教育活動全体を通して、系統的、計画的、組織的に進路指導を行うことが大切である。

こうした進路指導を行ってきた上で、次のことを踏まえて判断する必要がある。

- ・ 一人一人の生徒や保護者の進路に係る希望や志望理由等を十分に把握し、それらを踏まえること
- ・ 3年間の学業や生活態度等を考慮して、総合的に判断すること  
その際、生徒の優れた点や長所、生徒自身の成長や可能性、努力の過程、改善の状況等、生徒の状況を把握し、それらを踏まえること
- ・ 高等学校等の教育方針や特色、高等学校等の示す基準・資格等を的確に把握し、それらを踏まえること

## II 推薦基準等の策定、変更及び運用上の留意点

<策定、変更について>

- 1 Iに示す「推薦するための基本的な考え方」を踏まえ、進路指導主事と3学年主任等を中心に推薦基準等（案）を作成し、進路指導部と3学年会等で十分に協議すること
- 2 推薦基準等（案）は、校務運営会議等において十分に協議した上で、近隣の学校と著しく均衡を欠いている状況が生じていないかを含め、適切な推薦基準等（案）となっているか市町教育委員会と緊密に連携を図り、最終的に校長が決定すること
- 3 管理職や進路指導主事が中心となり、推薦基準等について全教職員の共通理解を図り、共有すること
- 4 推薦基準等については、入学時から、学年集会、保護者説明会、PTA総会等を通じて、生徒や保護者に説明し、十分に理解を得ること

- 5 推薦基準等を変更する必要がある場合は、学校全体で十分に協議した上で、市町教育委員会と緊密に連携を図り、最終的に校長が決定すること
- 6 推薦基準等を変更する必要がある場合は、年度当初に、変更点とその考え方を全ての生徒及び保護者に対して説明し、十分に理解を得ること

<運用について>

- 1 進路指導主事、学年主任及び担任を中心に、進路希望調査、生徒との個人面談及び保護者を交えた三者懇談等を通じて、生徒や保護者の進路に係る希望や志望理由等を十分に把握し、進路希望を実現するための方針等について、生徒、保護者と共通理解を図ること
- 2 学校の教育活動全体を通じて計画的、組織的、継続的な指導・援助を行い、日頃から生徒の長所の伸長、課題の改善に努めること
- 3 推薦に係る個人面談や三者懇談は、適切な時期に、十分な時間を確保し、落ち着いた環境の中で行うこと
- 4 一人一人の生徒や保護者の進路に係る希望や志望理由等の情報を把握し、学校全体で組織的に共有すること
- 5 推薦の対象とするかしないかを判断するための重要な資料については、進路指導主事、学年主任及び担任を中心に作成、保管するほか、管理職、進路指導主事等による記録の正誤等の確認を行う等、情報管理を徹底すること
- 6 進路の検討会議等は、管理職、進路指導主事、3学年会等で構成し、第3学年を指導する教科担当等の意見を聞くなどして、生徒一人一人について、進路に係る資料を基に十分に審議し、推薦の対象とするかは、最終的に校長が決定すること
- 7 校長が決定した結果については、速やかに生徒と保護者に丁寧に説明すること。特に、推薦の対象としないと決定した生徒に対しては、決定した結果にとどまらず、今後どのように生徒の進路の実現を図っていくかについて、生徒や保護者と十分に話をした上で、将来に向けての新たな展望を持たせるような共感的なサポートを行うこと

### 3 家庭・保護者，教育委員会との連携

進路指導を効果的に進めるためには，家庭・保護者の理解と協力が不可欠です。日頃から家庭・保護者との連携を密にしながら指導を進める必要があります。

特に，推薦基準等の進路指導上の重要事項については，推薦基準等を明確にし，運用のルールも含めて全教職員で共有するとともに，生徒及び家庭・保護者が十分に理解できるよう，入学時から，学年集会や保護者説明会等を通じて，丁寧に説明を行うことが求められます。また，これらの方針を変更する場合にも，事前に変更点とその考え方を生徒及び家庭・保護者に対して説明することが重要です。

さらに，変更する場合にとどまらず，近隣の学校と著しく均衡を欠いている状況が生じていないかを含め，適切な推薦基準等となっているか，市町教育委員会と緊密に連携を図る必要があります。

また，高等学校等の校風や教育内容，入学者選抜，高等学校等の示す基準・資格等を的確に把握し，生徒及び家庭・保護者に積極的に提供することで，家庭・保護者の理解・協力を得ながら進路指導を推進することが大切です。

### 4 情報管理の徹底

進路決定において扱う学習成績や生徒指導等に係る記録は，生徒個人のプライバシーに関わる，生徒の将来に重要な影響を与える情報です。これらの記録は，速やかに作成，保管するとともに，校長を始めとした管理職及び各主任等による記録の正誤等の確認を行うなど，情報管理を徹底しなければなりません。また，担任等が変わる際には，引き継ぎを確実にを行うほか，校内の各種会議や進路指導上の重要な指導事項に係る記録についても同様に，情報管理の徹底を図ることが必要です。

次のような，「個人情報等の適正管理に係るチェックリスト」を活用するなど，定期的に情報管理について自己点検することも有効です。

#### 個人情報等の適正管理に係るチェックリスト

広島県教育委員会 平成 28 年 4 月

項目		十分できている	どちらかといえ ばできている	どちらかといえ ばできていない	ほとんどできて いない
1 体 制 ・ シ ス テ ム の 確 立	個人情報及びその取扱いについての共通認識ができている。				
	情報管理の仕組みや手順について教職員間で確認ができている。				
	個人情報の取扱いに関して，チェック体制は機能している。				
	個人情報の取扱いに関する研修会等を定期的実施し，教職員に周知徹底している。				
	管理職を始め，関係分掌等の主任等は個人情報の取扱いに関する注意喚起を適切な時期に繰り返し行っている。				
	個人情報に関わる資料・データの確認は，複数の者で複数回実施している。				
個人情報に関わる資料・データを校外へ持ち出す場合，管理職の了承を得て，適切な手続きを行っている。					

項目		十分できている	どちらかといえ ばできている	どちらかといえ ばできていない	ほとんどできて いない
2 適切 な 保 管 ・ 管 理 ・ 運 用	個人情報を保管する場合、鍵のかかる場所に保管している。				
	個人情報に関わる資料・データについては、机上等に放置することなく、所定の場所に整理して保管している。				
	個人情報に関わる文書等を移動させる場合、ファイルに綴じたり、封筒等に入れたりしている。				
	個人情報に関わる文書等を引き継ぐ場合、相手に直接手交するとともに、記録に残している。				
	個人情報を取り扱う場合、期限までに時間的ゆとりを確保するなど時間を十分にとり計画的かつ慎重に行っている。				
	出席簿など原簿となる資料を明確にし、それとの照合により、個人情報を確認している。				
メール等を使用する場合、資料・データ等については、パスワードをかけるなど、細心の注意を払って扱っている。					

## 5 就職に係る公共職業安定所（ハローワーク）等との連携

就職を希望する生徒に対しては、公共職業安定所（ハローワーク）（以下「安定所」）等と連携を図り、指導・援助を実施していく必要があります。

就職指導に関する専門的な知識や豊富な経験を持っている安定所の職員から指導・援助を受けられる「訪問（巡回）職業相談（求職受理相談）」などを実施する場合は、教職員が事前に安定所と内容、方法、時期などについて十分に連携し、生徒が適切な進路の選択を行うことができるようにする必要があります。

### <新規中学校卒業者に係る職業紹介の実施に当たっての留意点>

- 職業に関する情報の提供、適性・能力の把握、職業選択に当たっての助言等の指導・援助を十分に行うために、学校における進路決定（保護者を含めた就職意思の決定）を早期に行えるよう留意すること
- 基本的な生活習慣、生活態度、心構え及び働くことの意義等について、学校において指導するとともに、安定所との連携、協力を行うこと

参考：「新規中学校卒業者職業紹介業務取扱要領」（平成 28 年度版）ハローワーク広島（広島公共職業安定所）p. 1



p. 29（参考）ハローワーク広島が平成 30 年 3 月新規中学校卒業者に職業紹介を行う業務日程表

## 6 中学校卒業時に進路が決定しない生徒への指導

中学校卒業時に進路が決定しない生徒については、卒業後に連絡がつきにくくなることも考えられます。そのため、在学時から、卒業後も継続的に連携することの大切さや、その方法について、保護者も交えて確認しておく必要があります。

## <効果的な指導の事例>

- 前年度の学年主任が、在学中に不登校傾向で進路未決定となった卒業生の家庭を定期的に訪問した。その際、安定所や地域若者サポートステーション等の情報を保護者を通して継続的に提供し、支援・援助することで、卒業生本人の就職への意識が高まり、就職支援施設との連携の末、就職が決まった。



自校の状況を見つめ直してみましょう!

- 自校の推薦基準等の内容を、運用のルールを含めて説明できますか？
- 推薦基準等を始めとする入試に係る重要な情報について、生徒及び家庭・保護者が十分に理解できるような説明を計画的に行っていますか？
- 校長が推薦するに当たって、生徒の優れた点や長所、生徒自身の成長や可能性、努力の過程、改善の状況等、生徒の状況をしっかり把握し、それらを踏まえて総合的に判断していますか？
- 高等学校等の校風、教育内容、入学者選抜、高等学校等の示す基準・資格等を的確に把握し、家庭・保護者に積極的に伝えていきますか？
- 校長を始めとした管理職及び各主任等は、進路決定において扱う学習成績や生徒指導等に係る記録の正誤等の確認を行っていますか？
- 卒業した生徒について、必要に応じて進学先、就職先、家庭等と連携を図っていますか？

# 別 添 資 料

## 1 進路指導とは

変化の激しい社会の中で、生徒たちは、「生きる力」を身に付け、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していかなければなりません。

進路指導は、生徒が将来の社会生活についての理解を深め、自らの在り方や生き方を考えながら、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を身に付けることができるよう、指導・援助する生き方の指導であり、キャリア教育の中核をなしています。

各学校においては、キャリア教育の視点に立ち、教職員の共通理解を深め、一人一人の生徒を大切に、その可能性を十分に伸ばせるよう、学校の教育活動全体を通じ、系統的、計画的、組織的に行うことが大切です。

## 2 進路指導の推進

### (1) 校内指導体制の確立

進路指導は、校長の方針の下、全教職員の共通理解と協力的な組織体制において進められることが必要です。そして、進路指導主事を中心とした進路指導の組織が、学校全体の中に適切に位置付けられ、機能化が図られているかを十分に検討する必要があります。

進路指導に当たる教員、とりわけ学級担任は、進路指導に必要な専門的な知識や指導技術あるいは見識などの向上に努め、よりよい指導を実践するための研修を重ねる必要があります。そのためには、進路指導に関する学年あるいは学校単位の研修会等を積極的、計画的に進めるとともに、指導内容の研究や事後の反省・評価、その他自己研修等を行うことが大切です。

また、進路指導上の重要な記録については、速やかに作成・保管し、管理職及び進路指導主事等による、情報管理を徹底する必要があります。

### (2) 進路指導主事の役割

進路指導主事は、進路指導の推進の中心であり、校長の監督を受け、進路指導の計画や運営の状況について、絶えず確認・評価し、その改善・充実を図るとともに、教職員間の連絡調整、関係教職員に対する指導、助言に当たります。

そのためには、今日的な課題について理解を深め、進路指導に関する知識・理解、指導技術について、一層専門性を高め、リーダーとしての資質を向上することが大切です。



### **(3) 学級活動における進路指導**

ア 学級活動における計画の立案に当たっては、卒業学年だけでなく、入学時から卒業まで見通しをもって生徒一人一人のキャリア発達を促すために、系統的、計画的に進路に関する指導を行うことが大切です。

イ 指導に当たっては、具体的事例や資料等を十分に活用し、生徒が進路の学習に主体的に取り組むことができるよう留意することが大切です。

### **(4) 進路に係るガイダンス機能の充実**

現在及び将来の生き方を考え、主体的に進路選択を行う能力を育成するためには、適切な情報提供や説明、各種の援助・相談活動といった、ガイダンス機能を充実させることが大切です。

ア 進路相談は、自己理解を深め、進路に対する関心を高め、自己の人生設計とそれに伴う進路選択の能力、進路先における適応能力、進路に関する問題解決の能力などを養うことを目指して行う援助です。

進路相談を効果的に行うためには、教員と生徒との相互理解を深め、信頼関係を築く必要があります。そのため、教員は日頃から生徒と接する機会を大切にし、教員と生徒の人間関係づくりに努めることが必要です。

イ 進路選択に関する面談については、計画的、継続的に実施することが大切です。

ウ 進路相談や進路選択に関する面談で得た個人情報については、適切に管理する必要があります。

エ 学校の進路指導の方針等については、入学時から適切な時期を捉えて、PTA総会や懇談会等で保護者に周知し、理解を得ることが大切です。

### **(5) 関係機関との連携**

ア 生徒の状況等を把握し、生徒の進路を実現するため、生徒が進学を希望する学校や職業安定所等と必要に応じて連携し、情報・資料等を得ることが大切です。

イ 生徒が進学先や就職先でよりよく適応できるように、学校や事業所等と十分連携を行うことが大切です。

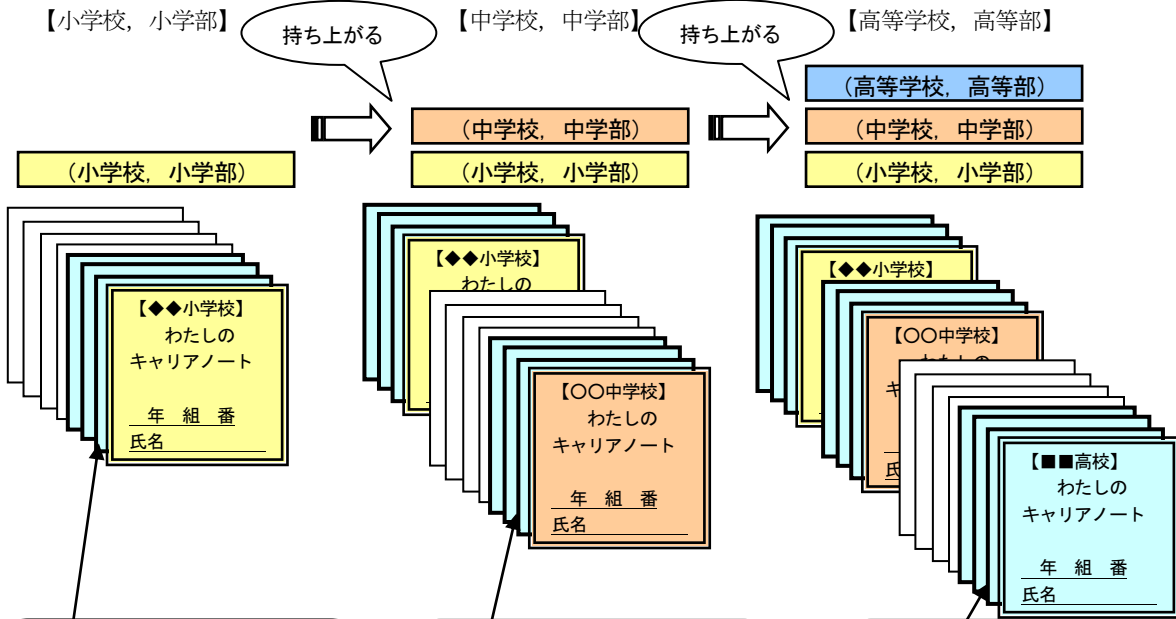
### **(6) 啓発的体験活動**

個々の生徒がしっかりとした勤労観・職業観を身に付け、自らの生き方を深く考え、主体的に進路を選択できるようにするために、職場見学・職場体験等、進路に関する啓発的な体験活動の推進を図ることが大切です。

# 「わたしのキャリアノート」 ～夢のスケッチブック～

「わたしのキャリアノート」は、校種を超えて児童生徒のキャリア教育に係る学習の記録を把握することにより、当該児童生徒の効果的なキャリア教育を支援するものです。

- ノートは、児童生徒が小・中・高校へと進学していく過程で、各学年ごとにキャリア教育に関する学習を1枚にまとめさせ、上級学校へ持ち上がらせましょう。
- ノート以外に個々の児童生徒のキャリア教育に関する学習の資料もあわせて上級学校へ持ち上がらせましょう。
- ノートは、学校の児童生徒の状況により修正し、活用しましょう。



**【計画】** 教員が作成したものを綴る。  
 ★ 小学校キャリア教育全体計画  
 ★ 第1学年～第6学年キャリア教育年間指導計画  
**【実践】**  
 ☆ 児童が作成したキャリアノートを綴る。  
 ○ 学校で実践している学習の資料を綴る。

**【計画】** 教員が作成したものを綴る。  
 ★ 中学校キャリア教育全体計画  
 ★ 第1学年～第3学年キャリア教育年間指導計画  
**【実践】**  
 ☆ 生徒が作成したキャリアノートを綴る。  
 ○ 学校で実践している学習の資料を綴る。

**【計画】** 教員が作成したものを綴る。  
 ★ 高等学校キャリア教育全体計画  
 ★ 第1学年～第4学年キャリア教育年間指導計画  
**【実践】**  
 ☆ 生徒が作成したキャリアノートを綴る。  
 ○ 学校で実践している学習の資料を綴る。

- 【例】**
- ★キャリア教育全体計画
  - ★小学校1年キャリア教育年間指導計画
  - ☆小学校1年キャリアノート
  - 学習の資料
  - ★小学校2年キャリア教育年間指導計画
  - ☆小学校2年キャリアノート
  - 学習の資料
  - ★小学校6年キャリア教育年間指導計画
  - ☆小学校6年キャリアノート
  - 学習の資料例
  - ①振り返ってみましょう
  - ②周りの人の仕事
  - ③自分のイメージマップ
  - ④中学校を知ろう
  - ⑤10年後の自分

- 【例】**
- ★キャリア教育全体計画
  - ★中学校1～3年キャリア教育年間指導計画
  - ☆中学校1年キャリアノート
  - 学習の資料例
  - ①自分イメージアップ
  - ②10年後の自分を想像しよう
  - ③プロから学ぼうマナー講座
  - ④地域で活躍している人の話を聞こう
  - ☆中学校2年キャリアノート
  - 学習の資料例
  - ①職場体験5日間の記録
  - ②職場体験で学んだことを先輩へ伝えよう
  - ☆中学校3年キャリアノート
  - 学習の資料例
  - ①進路模擬体験 高等学校等の体験入学先輩へのインタビュー
  - ②「自分の夢」をスケッチ

- 【例】**
- ★キャリア教育全体計画
  - ★高等学校1～3年キャリア教育年間指導計画
  - ☆高等学校1年キャリアノート
  - 学習の資料例
  - ①中学校のキャリア教育の学習を振り返る
  - ②高等学校の設計図
  - ③年間の学習の展開を知る～どのような流れで学ぶのか
  - ④「自分の夢」をスケッチ～テーマとゴールは何か
  - ⑤私のライフプランを立てる～社会人・職業人とは何か
  - ☆高等学校2年キャリアノート
  - 学習の資料例
  - ①将来を設計する力を身に付ける～※の学習記録
  - ②企業とその仕事を知る
  - ③仕事選びのステップ～就職先をリサーチする
  - ④学校選びのステップ～進学先をリサーチする
  - ⑤進学模擬体験（講義の受講、大学見学、体験入学等）を行う
  - ⑥就職模擬体験（講義の受講、企業見学、インターンシップ等）を行う
  - ☆高等学校3年キャリアノート
  - 学習の資料例
  - ①自分をプレゼンテーション～自分の学習を振り返る
  - ②「自分の夢」をスケッチ～ゴールの確認を行う

## キャリア・カウンセリング研修資料

### 1 個々の発達を促す、「語る」「語らせる」「語り合わせる」

子供たちが将来自立して生きていけるよう自分の生き方を見つめ、主体的に考えられるよう、個々の発達を踏まえて働きかけるには、どのようにすればよいのでしょうか。

具体的には

先生方が

語る

子供に

語らせる

子供たちに

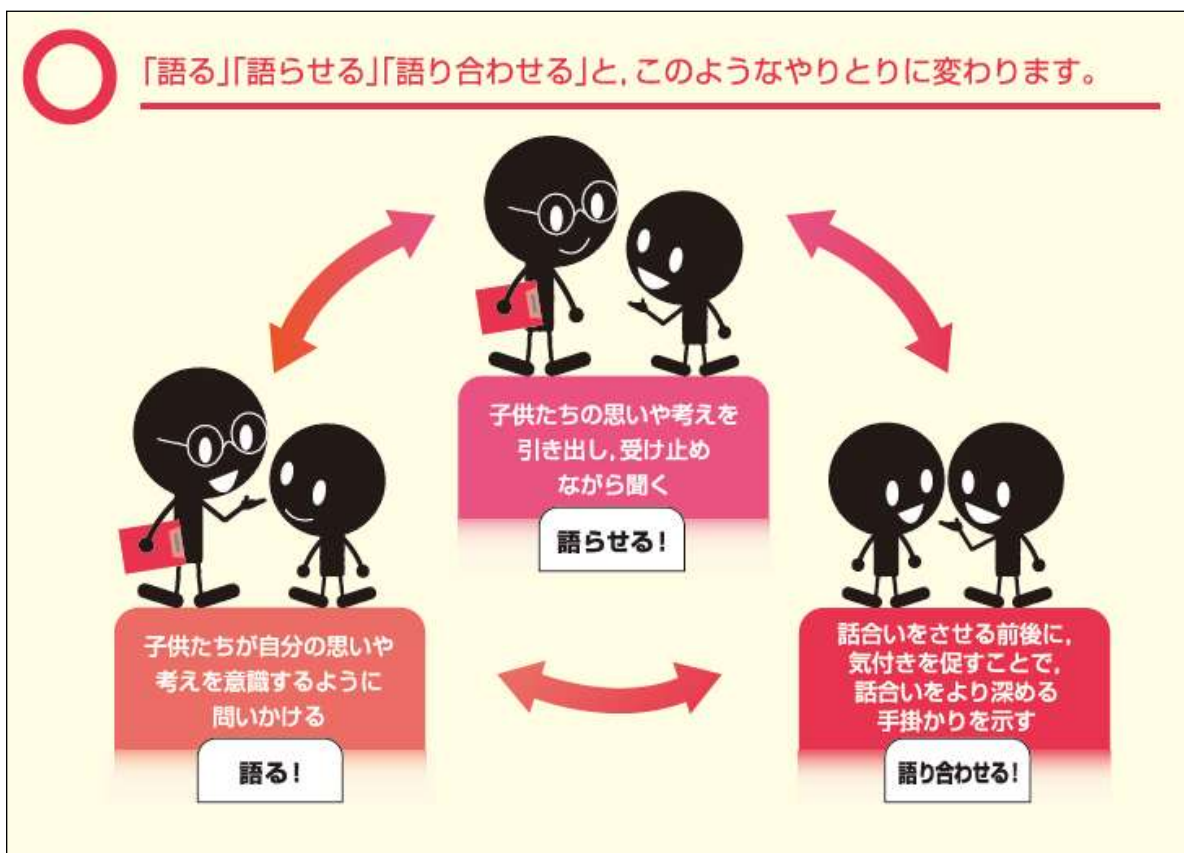
語り合わせる

先生方が「語る」ことは、子供たちにとって自分の生き方を考える上で、重要です。だからこそ、伝える内容と伝え方の双方に気を付ける必要があります。

「あなたは どうして そう思うのかな？」というように、子供たちの思いや考えを引き出すよう、意図して働きかけることが大切です。

子供に「語らせる」ことは、まだ言葉や文章にしていない自分の思いや考えに気付くきっかけになります。ですから、子供に「語らせる」ときは、耳を傾けて受け止めるよう心掛けることが大切です。

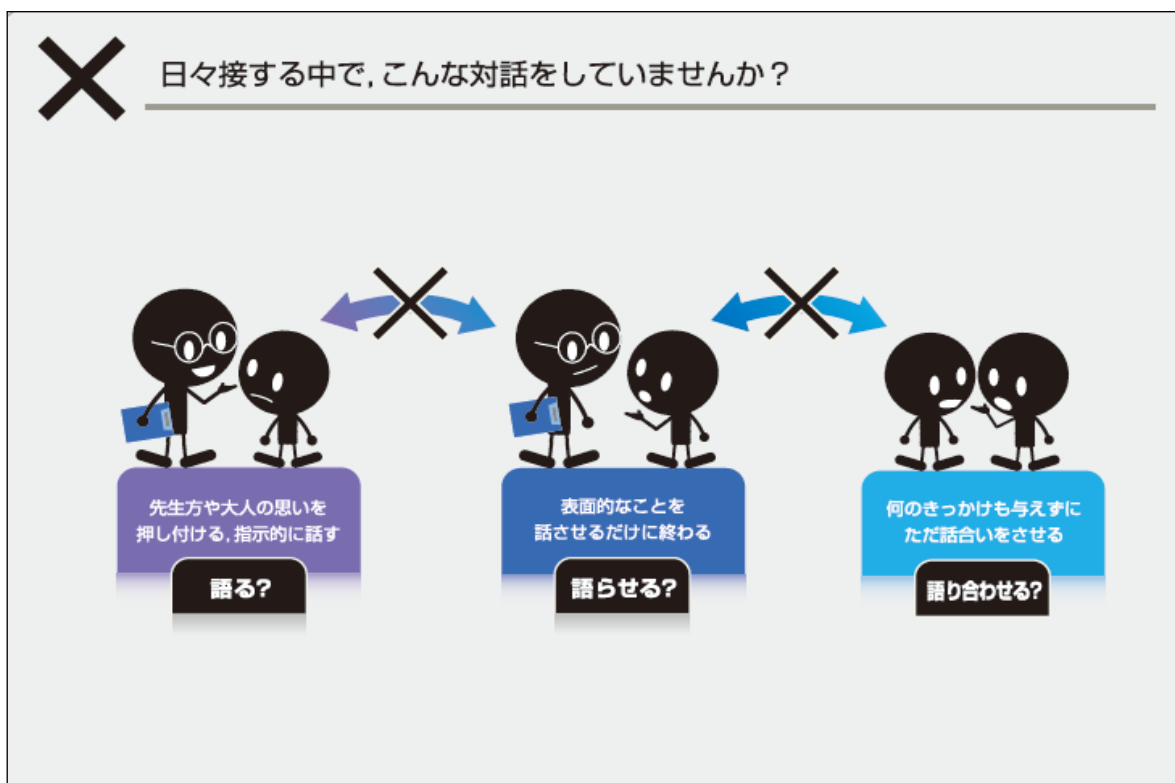
子供たちに「語り合わせる」ことは、他者の思いや考え方を知るとともに、自分自身の思いや考え方を明確にしたり、整理・再構築したりすることにつながります。意図的に、自他の違いに気付き、それを受け入れるよう促していくことが大切です。



「語る」「語らせる」「語り合わせる」ことは、決して単なる会話や対話ではありません。ましてや、指示的に話しかけたり、思いや考えを押し付けたりすることでもありません。

先生方が一方的に指示した場合、若しくは意図もなく子供たちに話合いをさせた場合であっても、一時

的になら子供たちに変容が見られるかもしれません。しかし、それが成長・発達につながるとは限りません。大切なのは、子供たちが自ら気付くことを促し、主体的に考えさせ、それを成長・発達へとつなげていくことです。また、どの場面であっても、相手と自分の双方を尊重する、あるいは相手を傷つせず、自分のことも犠牲にしないようにすることが重要です。



国立教育政策研究所 「『語る』『語らせる』『語り合わせる』で変える！キャリア教育」（平成28年3月） p.6, p.7から抜粋

## 2 カウンセリングの基本となるスキル

日常生活で子供たちの「気付き」を促し、主体的に考えさせ、子供たちの行動や意識の変容につなげることを意識して働きかけるためには、日々子供たちに接している教職員が、カウンセリングに関する知識やスキル、及びその基盤となる生徒と円滑にコミュニケーションをとるための方法を習得することが重要です。

そこで、次のようなカウンセリングの基本となるスキルを活用して意図的に働きかけることが大切です。

### (1) 傾聴

相手の話を、心をこめて、真剣に聴き取る姿勢のこと。「こちらが質問したいこと」ではなく、「相手の言いたいこと」を聴くこと。相手の「言葉」だけでなく、その裏にある相手の「心」まで聴き取ること。傾聴するためには、以下のように、話を聴いていることが相手に伝わるようにすることが大切です。

- あいづち…同意：「はい」「ええ」「なるほど」「たしかに」  
感嘆：「ええ！」「すごいね！」「すばらしいね！」「いいね！」  
促す：「それで？」「それからどうなった？」「もっと詳しく話して！」
- うなずき…相手の発言のリズムに合わせて首を上下に動かす。  
相手の感情や話の内容により、浅いうなずき、深いうなずきを使い分ける。
- 繰り返し…相手の発言の全部、または一部をリピートして返す。  
相手の話のキーワードを繰り返す。  
「あなたの言いたいことは、〇〇ですね。」（〇〇は、相手が言った言葉）

## (2) 質問

相手に好意を伝達するとともに、相手の情報を収集すること。また、相手に自分の問題やその状況を的確にとらえさせ、解決のために何ができるか考えさせること。

質問には、大きく分けて、閉ざされた質問と開かれた質問がある。

質問の種類	閉ざされた質問 (YES/NOで回答可能な質問)	開かれた質問 (5W1Hの疑問詞を使った質問)
目的	・事実や内容の確認する	・具体化する ・相手に考えさせる
特徴	・回答しやすい ・会話が広がらない	・自由な発想や意見を聞く際に有効 ・会話が広がる
例	「そのことは家でも話しましたか。」 「賛成してくれましたか。」	「家の人の反応はどうでしたか。」

WHY…?よりも、WHAT…?の方が相手の考えや意欲を引き出す。

相手を責める問いかけ WHY…?	相手を動かす問いかけ WHAT…?
「なぜ目標を達成できなかったの？」 (相手の意識) 「責められている気がする…」	「何が原因で目標を達成できなかったのかな？」 (相手の意識) 「そうか、〇〇が原因だ！」
「なぜ今までやらなかったの？」 (相手の意識) 「やろうとしたんだけど…」	「これから何をしていけばいいと思う？」 (相手の意識) 「自分には何ができるだろう…」
「どうして相談にこなかったの？」 (相手の意識) 「相談しづらかったのに…」	「何かサポートできることはない？」 (相手の意識) 「心強いな…よし、できることからやるぞ！」

## (3) 承認

相手の存在を肯定的に認めること。認めるとは、相手のよいところを見て、心にとめること。さらに、それを言葉に出して相手に伝えること。

### ① 存在承認

相手の存在そのものを肯定的に認めること。

存在承認のポイント	具体例等
相手がいることをきちんと分かっているというメッセージを送る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見る</li> <li>・朝の挨拶や帰りの挨拶</li> <li>・名前で呼び</li> <li>・日常の声かけ</li> </ul>

### ② 事実承認

結果の如何に関わらず、結果に至るプロセスや行動を認める。

事実承認のポイント	具体例等
相手の普段からの努力や行動を観察する。	「〇〇さん、がんばっているね。」「最後までやり通したね。」 「新たなチャレンジだね。」「約束守れたね。」「発表できたね。」 「時間を割いてくれてありがとう。」「これやってくれてありがとう。」

### ③ 結果承認

相手の行動の結果を認めること。

結果承認のポイント	具体例等
相手のよいところを見つけて心を込めて伝える。  ・アイコンタクト ・顔の表情 ・声の響き	<b>&lt;YOUメッセージ&gt;</b> 「あなたは、前向きだね。」「すごいね。」「冷静だね。」 ・自分のいいところが認められているという事実が伝わる。 ・過度の使用は抵抗感を生む。時として相手に評価として伝わる。
	<b>&lt;Iメッセージ&gt;</b> 「あの意見は、私にとってとても参考になったよ。」 「前向きなあなたを見てると、私までやる気がわいてくるよ。」 ・自分のいいところが他者にプラスの影響であることが伝わる。 ・相手の評価ではないため、受け入れられやすい。
	<b>&lt;WEメッセージ&gt;</b> 「あなたの発言のおかげで、みんなの発想がらくらんだよ。」 「あなたの挨拶を聞くと、私たちみんなが元気になるね。」 ・相手との距離を近づける、より高度な方法となる。

## 3 キャリア・カウンセリングの練習

### (1) 希望する進路が決められない生徒

生徒A「どんな仕事をしたいのかは、まだ分かりません。やりたいことが見つからないし、特技などありません。」

教師

まずは、生徒の言葉を共感的に受け止め、肯定的な言葉をかけながら、生徒が自分の適性を客観的に見ることができるよう指導をしましょう。生徒が自分自身のことに気付いたら、様々な情報の中から、自分に適した進路を見つけられる支援をしていきます。

### (2) 部活動で部長に選ばれた生徒

生徒B「部長に選ばれたんだけど、自信がありません。後輩を引っ張っていく自信がないし、みんなが言うことを聞いてくれるかどうか心配です。」

教師

人間関係なのか、自分の指導力なのか、生徒の自信のなさの理由をしっかりと聞くようにしましょう。  
そして、状況に応じて、「部長としてやっていけるか心配なんです。しかし、メンバーはあなたを信頼しているから、きっとついていくよ。メンバーを信頼してがんばってみたら。」などと、激励することも考えられます。

### 指導・援助のポイント

キャリア・カウンセリングというと、進学や就職で悩んでいる場合の相談と捉えられるかもしれませんが、しかし、キャリア・カウンセリングは、生徒一人一人の生き方や進路等の選択に関する悩みや迷いなどを受け止め、自己の可能性や適性についての自覚を深めさせたり、適切な情報を提供したりしながら、生徒が自らの意思と責任で進路を選択することができるようにするための指導・援助です。  
教師は、生徒との人間関係を築いていく中で、一人一人の理解に努め、個々の生徒に応じた指導に当たる必要があります。

## 面接評価チェックリスト

○ 以下のような面接評価チェックリストを校内研修等で活用し、キャリア・カウンセリングのスキルを高めましょう。

◎：非常にそうである    ○：ややそうである    △：あまりそうでない

### (1) 話しやすい雰囲気づくり

- ① (       ) ゆったりした受容的態度で何でも安心して話せる雰囲気だった。
- ② (       ) 相談者に視線を向け、あいづちをうち、発話を促していた。

### (2) 共感的、支持的態度

- ① (       ) 相談者の感情を正しく受け止め、共感的、支持的であった。
- ② (       ) 勝手に自分の思い込みで解釈したり、決め付けたりすることはなかった。
- ③ (       ) 相談者が話している間は、最後まで聴き、途中で話を遮ることはなかった。

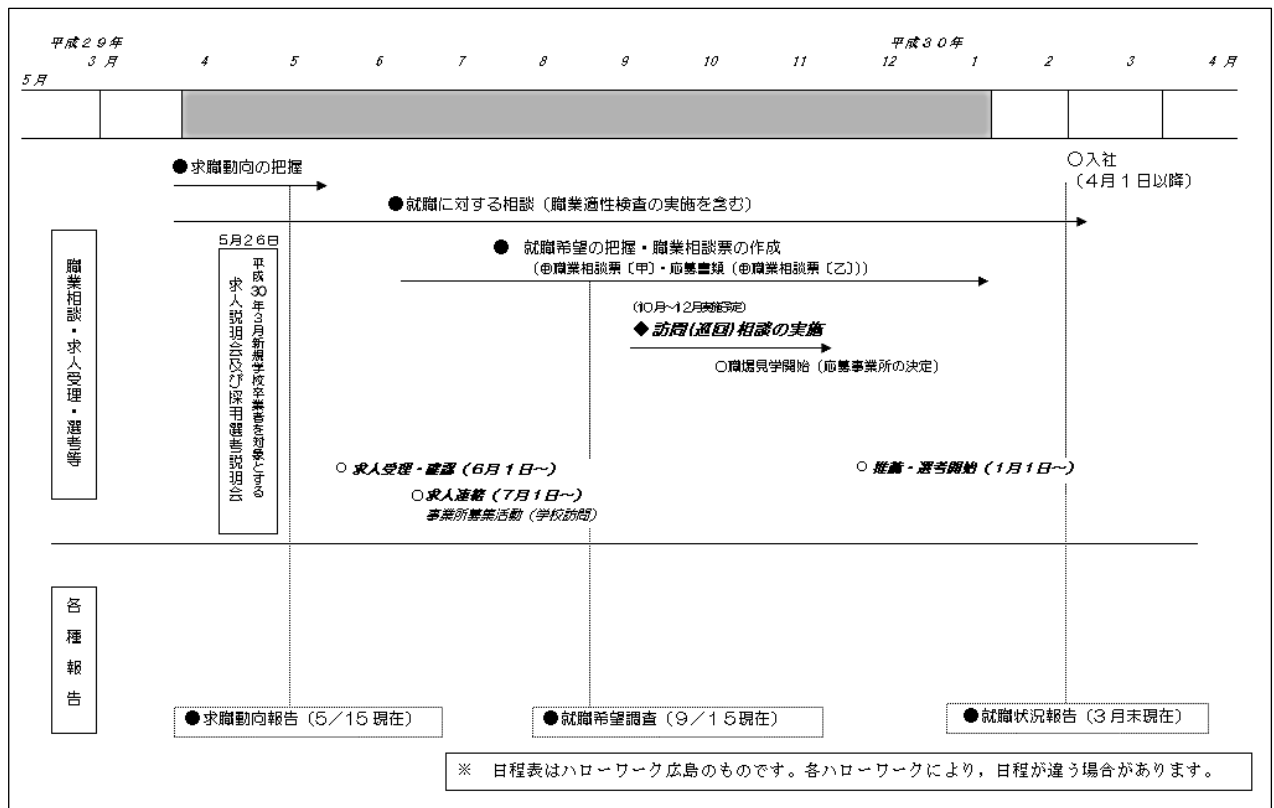
### (3) 状況、問題の把握、理解

- ① (       ) 効果的で的確な質問をして話を引き出し、具体的に掘り下げていた。
- ② (       ) 話のポイントを繰り返しながら、話をまとめ、整理していた。
- ③ (       ) 相談者のおかれている状況を正しく理解し、問題を把握していた。

### (4) 問題解決支援

- ① (       ) 相談者のニーズ、欲求や希望をよく理解して問題解決支援を行った。
- ② (       ) 相談内容に適した助言、情報提供を行った。

(参考) ハローワーク広島が平成30年3月新規中学校卒業者に職業紹介を行う業務日程表



情報提供：ハローワーク広島（広島公共職業安定所）



## 参考・引用文献一覧

- 小学校キャリア教育の手引き〈改訂版〉(平成 23 年 5 月) 文部科学省
- 中学校キャリア教育の手引き (平成 23 年 5 月) 文部科学省
- 高等学校キャリア教育の手引き (平成 24 年 2 月) 文部科学省
- 広島県進路指導の実践のために (平成 6 年 6 月) 広島県教育委員会
- 個性を生かす進路指導をめざして〔第 2 分冊〕(平成 5 年 5 月) 文部省
- 中学校・高等学校進路指導の手引-中学校学級担任編-〈改訂版〉(昭和 58 年 3 月) 文部省
- 子供たちの「見取り」と教育活動の「点検」(平成 27 年 3 月) 国立教育政策研究所
- キャリア教育のススメ (平成 22 年) 国立教育政策研究所  
生徒指導研究センター編
- キャリア教育って結局何なんだ? (平成 21 年 11 月) 国立教育政策研究所
- 「語る」「語らせる」「語り合わせる」で変える! キャリア教育(平成 28 年 3 月) 国立教育政策研究所
- 生徒指導・進路指導の改善等について〈通知〉(平成 28 年 7 月 29 日) 文部科学省
- 「府中町における自殺事案に関するタスクフォース」中間取りまとめを踏まえた生徒指導・進路指導の確認について〈通知〉(平成 28 年 3 月 25 日) 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 総則編 (平成 20 年 9 月) 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 道徳編 (平成 20 年 9 月) 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 (平成 20 年 9 月) 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 特別活動編 (平成 20 年 9 月) 文部科学省
- 新規中学校卒業生職業紹介業務取扱要領 (平成 28 年度版) ハローワーク広島  
(広島公共職業安定所)